



米沢有為会 米沢支部だより

平成18年度

支部理事と寮生OB等の芋煮会

ホテルサンルート米沢 10月7日

今年度から組織体制の充実を図り、顔のみえる支部活動をめざして手始めに、支部理事のみなさんと興譲館寮生OB等との芋煮大懇親会を開催しました。参加者からは多くの会員が集えるよう毎年開催しようと好評でした。

第 14 号

平成19年 2月 1日

発行者

(社)米沢有為会
米沢支部
支部長 安部三十郎

米沢市金池5-2-25

☎ 0238-22-5111



ビジネスネットワークオフィス活動

NECパーソナルプロダクツ株式会社

執行役員 柴田 孝

五年前から「米沢ビジネスネットワークオフィス」という任意団体を立ち上げて活動をしています。

これは産(企業)・官(山形県、米沢市)・学(学校)・金(金融機関)・労(労働組合)・医(医師会)・商(商店)連携でグローバル化や少子高齢化社会の中でも米沢が将来に向けて豊かに、持続的に発展していくために、課題や問題を捉え解決に向けて積極的な提言や自ら行動を起こし実証していくことを目標に創られたものです。今も活発に活動を続けています。

これからはますます激しく押し寄せてくるグローバル化の波や、地域の競争力を弱めていくであろう少子高齢化社会で生き伸びていくためには、国や県や他人に任せっきりにしては、生まれ育った大好きな故郷は衰退してしまいます。自助、互助、公助の精神で立ち向かうことが重要だと思えます。

この大変化に立ち向かうためには、雪や高齢化社会を弱みとして捉えるのではなく、むしろうまく活用して強みに変えていく、つまりは雪や高齢化社会を積極的に活用して、新たな付加価値に結びつけるという発想が大事です。

米沢には誇れる技術、歴史、文化、農産物、優秀な人々が数多くいます。代々伝わってきた考え方も誇れるものだと思います。

ビジネスネットワークの活動を進めれば進めるほど、鷹山公の考え方と同じ方向に向かうことに気がつきました。

地域の特性を生かすこと、生かすための技術の導入や人づくりのための教育の仕掛けづくりや働くための哲学、それを定着させるための長期的な考え方や、そのための「備え」などです。

雪が多い地域での高齢者への見守りや、雪の中で高齢者が安全に乗る自動車システムの研究、農産物とITの融合など、誰も手をつけていない分野があります。地域と生活者に立脚した課題と材料は沢山あります。

米沢には多くのITに強い企業と山形大学工学部の力や文化、歴史など素材は沢山あり、これらを新しい付加価値に変えていく力こそ、長年受け継がれてきた「そんぴん」精神ではないかと思えます。

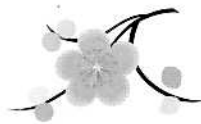
会員倍増キャンペーンが始まりました

(社)米沢有為会は3年後に創設120周年を迎えます。これを契機に会員倍増キャンペーンを実施します。会員みんなが1人1名ずつの会員募集に協力くださるようお願いいたします。

現在、会員は全国で1100名ほどで、米沢支部会員は554名です。本会の継続を図るには常時、会員の勧誘が欠かせません。支部活動も、情報提供や会員相互交流を図るなど、新たな視点から充実を図っています。

ご存知のように、本会は郷土米沢地方から国家社会に有為な人材を育てる会として創設されました。奨学金貸与事業や興譲館寮を東京、仙台等に設置して青少年の健全育成を図り、現在は東京、仙台で興譲館寮を運営、平成4年には民法学者我妻榮先生の生家を記念館として管理運営しています。

会員の皆さまには、歴史と伝統ある本会の人材育成事業を誇りとし、今後も継続されるよう一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。



普通会員	年額	3,000円
特別会員	年額	7,000円
賛助会員	年額	10,000円

— 米沢支部役員一同 —

川西町で貸しジャズホール「ジャム」を拠点に、ユニークな活動をしている片倉 尚 (かたくら たかし) さんをご紹介します。

～ 活躍する会員紹介 ～ ②

片倉 尚さん 1953年川西町生まれ。県立置賜農業高校卒。若松工業株式会社社長。ジャズ喫茶店主。
会社：川西町上小松4027-2 TEL：42-2711 ジャム：川西町上小松2992 TEL：42-4533



— お仕事は — 自分が立ち上げた若松工業で、水性ボールペン部品を製造している。

— ジャズ喫茶「ジャム」を造ったきっかけは — 中学、高校と吹奏楽部に所属し、その後もアマチュアで活動していたが、町のなかに気軽に練習できる場所がなかった。いろいろな人が自由に音楽に触れられる時間と空間が欲しかった。そこで、平成7年、喫茶もできるホールを立ち上げた。

— ホール運営のモットーは — 老若男女だれでも利用できる。全席S席で、どの席も居心地がすばらしいように設計している。ここで、音楽好きな人たちが、時間を

忘れずいたくなひとときを過ごしてもらえよう心配りをしている。あくせくする日々のなかで、ホッとする時間を作り、明日のエネルギーを蓄えて欲しい。人と人との触れ合いを通して、豊かな人間関係を築いてもらうことができたなら…、とこんな思いでこのホールを運営している。

— 活動は — 趣味で持ち込まれた古い楽器を手直ししている。50年も前の楽器が見事によみがえる。古いものを大切にしていきたい。ピザ焼窯で自分だけのオリジナルピザを焼いてもらい、作る喜びや、食べる楽しさを体感してもらっている。学生たちのピアノクリニックを受け入れている。「市場」という言葉が好きなので、数年前から「川西町見本市」を開催している。これは、フレンドリープラザとタイアップしての事業で、今後継続しながらさらに音楽仲間を増やしていきたい。

— 今後の抱負は — 古民家でのいろいろ文化をゆっくり楽しんでいきたい。働くだけでなく、心にゆとりをもって過ごしたい。



ここでは、人から冠を取り除いた一人の人間としての付き合いがある。だから、いろいろな人が集まってくるのだろう。殺ばつとした今の時代、時にはゆったりとせいたくな時間を作っていくことが必要なのかもしれない。

米沢有為会米沢支部だより

我妻榮記念館の維持補修にと多額の寄附

米沢有為会が管理運営している文化勲章受章者、名誉市民である我妻榮の生家我妻榮記念館の維持補修のためにと、米沢市中央三丁目の遠藤広子さん（八十四才）から米沢支部へ寄附金百万円をいただきました。

遠藤さんは、九月二十二日我妻榮記念館を始めて訪れ、かねて敬愛していた我妻先生の資料や図書を親しく見学されました。後日図書もたくさん購入されました。そして、訪れた記念館があまりにも老朽化している状況を痛み、維持保存するのに何かのお役に立ちたいと強い希望を申し出られました。十一月一日に寄



寄附受納式の様子

附受納式を執り行いましたが、ご本人が体調を崩され、やむなくご子息の隆さんに代理していただきました。

支部長からは尊いお志に深く感謝するとともに、趣旨に添うべく努めますとお礼を申しあげました。

記念館に寄附続く

遠藤広子さんからの寄附をいただいた後、市内在住の加藤洋子さんからも寄附の申し出がありました。さらに、自ら有為会会員となっただけではなく、十数名もの会員を募っていただきました。



遠藤広子さんからのメッセージ

先日、大切なご本をご恵贈賜りまして誠にありがとうございました。

米沢で生まれ育ち生活してまいりました私は、幼い頃より米沢から出られた立派な方々のお話を、両親より幼少の頃から聞かされて米沢に誇りを持って生きてまいりました。

米沢は、藩政時代から由緒正しい伝統と進取の気性にと

んだ独特の文化に培われてこの町独特の風習、風物を永い間継承してきてくださった、先人の方々の色々なご努力に對しまして心から感謝申し上げます。

そして、いつか私も何かお役に立てることがあつたら、この町にご恩返しをしてこの世を終わりたいと思っております。

又、先ごろ我妻榮記念館を訪れる機会があり、収蔵されているたくさんの方々の記念物を拝見させていただき、すっかり感激いたしました。

そこで、館の運営は米沢有為会がしているということを知りました。

現在は、国、県、市町村等どこでも行政改革で財政事情も厳しく、館の維持や雪下ろし等にも大変ご苦労が多いということを知りました。

それで、ほんの貧者の一燈で恥ずかしいとは思いましたが、寄附を申し出ることになりました。

最後になります。米沢有為会の今後益々のご発展とご健勝を心からお祈り申し上げ、私のささやかなお礼の言葉といたします。

（紙面の都合上、一部割愛させていただきます）

リレー随想 ① 青春の火種

米沢支部長 安部三十郎



十数年前のことです。米沢市内の会社に勤務していましたが、総務課でしたので新入社員教育担当を命じられました。一カ月間の研修の仕上げに、米沢の会社から蔵王温泉まで、一泊二日の行程で歩くことになりました。途中で泊めて頂いた宿は、上山温泉街からだいぶ離れて一軒だけポツンと建つ温泉でした。専用タオルもないところで、私たちはバラバラな名入りのタオルを手渡されました。私が貰ったタオルを何気なく見ると、なんと「仙川・寿司初」と書いてあるではありませんか。東京興譲館寮の近くにある鮎屋さんで、寮生の私たちにとっては年に一、二度行ける場所でした。聞けば、宿の主人の妹が寿司初のおかみさんとのこと。やはり、世の中に奇遇はあるものです。

始めました。寮生が女子学生も呼んできました。一升ビンのラッパ飲みが自分の番に回ってきて、くるっと皆んなに背を向けて飲んでいる女の子の写真を取っていたはずなのですが、アルバムに見つかりませんでした。駅前商店街のご好意により、商店街は有線放送で花笠音頭を流して頂いて踊り歩きました。やがて寿司初に差しかかると、お店の家族が総出で迎えてくれました。そして、皆んなはへべレケになって寮へたどり着いたのでした。

当たり前の話ですが、戻りたくても過去へは戻れません。ならば、過去のことは過去のこととして決別するのはなく、せめて青春の思い出の大切なものは心の火種に取って置き、時々燃え上がらせて潤いある人生にしたものだと思えます。



